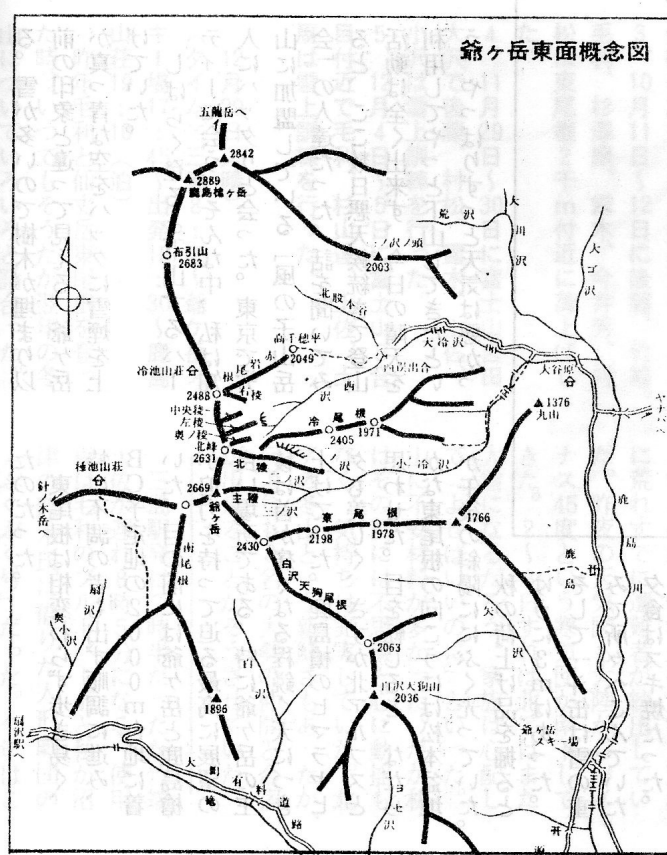


には簡単に着き、荷物をデポしてさらに進む。私は疲労感がありピッチは仲々上がらない。8ミリ撮影もあるのでラストでゆっくり登る。布引岳を越えると南峰の頂が見え、沢山の人が上り下りしているのが良く分かった。本峰に取り付き、だっ広い斜面を行くと3人はすでに頂にかかっていた。少しガスが出てきた最後の斜面を登り切ると平らな頂上に着いた。永い間夢みた冬の鹿島槍の頂上だったが意外と感激はなかった。少し疲れたためだろうか。8ミリの回し、行動食を口にする。ガスが濃くなり辺りの山は見えなくなった。寒い。すぐ下降に移る。途中トランシーブでBCを呼ぶが応答はなかった。今日ビバークするがBCに戻るかの判断基準になる冷池山荘には14時前に着いた。天候も安定しているので予定通り踵を返す。



リラックスしてきた。夕食は食料が余っているので豪華な物を作る。酒も入り歌も出る。だけど皆疲れているせいか昨日日程元気がない。歌も昨日唄ったもので新鮮味もない。何かもの足りない。考えてみると自分達の歌がない事に気がつく。「三島労働の歌」が欲しい。私はこの時そう思った。杉澤も同じ考えで協力してくれた。原案はすぐに出来たのでテープに入れ、家に帰り整理して採譜すればOK

だ。アタック隊4名はエスパースで休む。いろいろ話をして新年を迎えた24時過ぎに寝た。

1月1日(晴)
 へタイム 起床6:00 出発10:00
 鹿島山荘12:30 爺ヶ岳スキー場13:45 三島21:30

今日も天気は良い。皆で外に出て日の出を見ながら、8ミリの回し、新年の抱負を語り合う。そし

て山々はモルゲンロートに染まる。何と神々しいことか。テントの前を幾組かのパーティーが山に向かつて行く。荷物を整えテントを撤収して下山開始。

私は8ミリのラストシーンを撮影するために早く下り、1978m峰でカメラを回す。純白の鹿島槍、爺ヶ岳をバックにひとつの事をやりとげたアルピニストが下山して行く。実に絵になるシーンだった。ここではチャイコフスキの曲を使おうかと思った。撮り終え私も下山。足どりは軽く、今回の山行に充分満足している自分が分かった。(文中敬称略)

(82年3月26日発行機関誌「くろゆり」第8号に収録)

解説 この年よりいよいよ三島労働の北ア冬山挑戦が始まった。3年計画で後立山の鹿島槍ヶ岳、五竜岳、白馬岳を登る予定だった。会は若い元気のある男女会員が増え、再び以前の活気が戻った。記念すべきこの冬山A隊に初めて女性の参加があり成果を残し、以後常念岳まで3年間、A隊に女性が参加する「常識」を作った。

使用不能だった。終点に着いたが、

レースはハッキリしていた。登る